

ESDとは	ESD ユネスコ世界会議とは	会議の参加者の方へ	イベント情報	パートナーシップ 事業について	支援実行委員会
-------	-------------------	-----------	--------	--------------------	---------

[TOPページ](#) > [イベント情報](#) > [実行委員会主催イベント](#) > [ESDあいち・なごや子ども会議](#) > [ポストフォーラム](#)



支援実行委員会主催イベント

イベントカレンダー

■関連サイト



●[関連サイト一覧](#)

ポストフォーラム

県内121名の子どもたちは約5か月間、持続可能な社会について学び・話し合い、その成果をメッセージとして取りまとめました。メッセージは、ESDユネスコ世界会議の閉会全体会で発表し、世界会議参加者から満場の拍手をいただくとともに、新聞等でも大きく取り上げられました。今回は、子どもたちが真剣に話し合ってきた成果と課題を受け、「大人」がESDの取組について考える「『ESDあいち・なごや子ども会議』ポストフォーラム」を、2月8日（日）に開催しました。

なお、ポストフォーラムは、愛知県環境部主催のイベント「LET'S エコアクション in AICHI」と連携して行いました。

始めに、支援実行委員会の吉田事務局長からあいさつがありました。

その後、「子ども会議」をコーディネートした杉山範子先生から活動報告として、当時の様子をスライドで紹介するとともに、11月10日（月）全体会議の時の閉会宣言を動画で流しました。



次に、「子ども会議」に参加した子どもたち3名がステージに上がりました。ここからは、杉山先生から子どもたちに質問しながら進行了。

子どもたちからは、ESDと聞いても漠然としていたが参加していくうちに具体になった、子どもにも出来ることがあることが分かった、実際に身近な所から取り組んでいる、授業で発表してクラスで話し合ったと、意見や報告がありました。

そして、子どもたちが話し合える場がもっと欲しい、大人にもESDに興味をもって欲しい、と大人への要望がありました。

最後に、3人で、「子ども会議」のメッセージを読み上げ、子どもたちの発表は終わりました。



次に、「子ども会議」に関わった方々によるパネルディスカッションを行いました。タイトルは「子ども会議の成果と課題から考えるESDの取組」です。パネラーには、「子ども会議」のファシリテーターからNPO法人もりの学舎自然学校の浜口さんと中部大学の岡本先生、参加校から東浦町立緒川小学校の種村先生、高校・大学生のサポーターから愛知淑徳大学の浅野さんの計4名です。パネルディスカッションのファシリテーターは、杉山先生にお願いしました。



最初は、パネラーの自己紹介と「子ども会議」への関わり方についてお話しがありました。

(パネラーの主な発言内容)

- ・違う学校の子ばかりのため、話し合っていない時のコミュニケーションづくりに配慮した。
- ・イベント化している行事を工夫して、子どもたちが考える探究の場としている。
- ・ESDは行動に移すことが大事。
- ・子どもたちの学びたいという貪欲な姿勢に心打たれた。
- ・「子ども」対「大人」という関係ではなく、「子ども」も「大人」もお互いに教え合う関係を大事にしたい。

次に杉山先生からパネラーへ、「子ども会議で子どもたちから『話し合う場がもっと欲しい』という意見がたくさんありましたが、どのようにしたらいいでしょうか」という投げかけがありました。

(パネラーの主な発言内容)

- ・子ども議会など、子ども同士が話し合う場が設けられている市町村がある。いろいろなセクターが得意分野を活かしながら、話し合う場をつくっていくと良いのではないかと。
- ・地域には多くの人材がいる。また、大学は地域との関わりを深めており、そのような活動に貢献できるのではないかと。
- ・今の子どもは、自発的に意見が出てこない。意見が出やすくするよう工夫が必要だと思う。
- ・学校にも子ども同士が話し合う場があるので、それを活用したらどうか。そこで、何を話し合うかが大事だと思う。自分の学校では「答えが一つではない課題について敢えて挑戦する」をテーマに取り組んでいる。
- ・ボランティアに参加したい大学生は多いので有効活用したらどうだろうか。
- ・大学生の提案を大人にもっと受け入れてほしい。受け入れられない場合は、大人も一緒に考えてほしい。
- ・学校の方は、地域の力をもっと活用してほしい。

次に、会場の参加者から意見をいただきました。「子ども会議」の参加者やサポーターからも発言がありました。

(会場からの主な発言内容)

- ・ESDが学校内で知られていないので、ファシリテーターやパネラーの方が学校に来て話をしてほしい。
- ・このような場があることを、みんなが知ってもらえるよう、広報に力を入れてほしい。
- ・「あいち・なごや宣言」をもっと分かりやすく広められないだろうか。
- ・高校・大学では研究として取り扱われている。専門分野とのリンクが大事では。



最後に、パネラーから一言ずつお話しがありました。

(パネラーの主な発言内容)

- ・子どもたちと話し合うことで、ESDへの考えが深まっていった。とにかくやってみることが大事だと思う。講演だけでなく、子どもたちとの話し合いもお手伝いしたい。
- ・「子ども会議」では、答えが一つではないこの社会をどう生き抜くのか、みんなで話し合い、悩み、行動するプロセスを経ることができた点が良かった。
- ・ESD人材バンクのようなもので、学校や地域に人材を派遣できたら良いのではないかと。
- ・ESDは横文字で分かりにくい。周りの人に話しながら広めていけたら良い。
- ・世界会議で各国の人たちが、教育者の教育が難しいと言っていた。具体的な活動方針が課題となっている。
- ・異なる考えの人とも話し合っていきたい。

杉山先生は、ESDは分かりにくいに取り組むなかで気づくことがある、人材はたくさんいるのでつながって進めてほしい、今あるものに新たな価値観や考え方を加えることが継続して広めることにつながるのではないかとまとめ、ポストフォーラムを終了しました。



 ESDあいち・なごや子ども会議

[お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#) | [プライバシーポリシー](#) | [免責事項・著作権・リンクポリシー](#) |

ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会

Copyright(C)ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会.All rights reserved.